海を照らす灯台のなかまたち（21）

～伊予水越島灯台～

（いよみずこししまとうだい）

大崎鼻灯台からリアス式海岸を南へ向かい宇和島市吉田町玉津地区までの海岸線を行くと法花津湾の真ん中にポツンと一つ小さな島が見えます「水越島」といいます。

明浜町狩浜生まれの私は、家から海辺に出るとすぐ、遠くに浮かぶこの島が目に入るのは日常の光景でした。

幼いころ、この島の辺りまで小さな手漕ぎの舟で釣りに連れて行ってもらったことが思い出されます。

何時の時代のことか明らかではありませんが、この島の所有権をめぐって今は明浜町となっている「高山」、「狩江」、「俵津」と吉田町となった「玉津」の四ケ村が争奪戦となった。

互いに譲り合う気配はなく、なかなか解決の糸口が見えない。そんな時、誰からとなく、各村の庄屋さん宅から、この島が見える村のものとしてはということになり了解した。

さて、どの村の庄屋さん宅から島は見えるのか、島から一番遠い「高山」からは今考えても見えるはずはなく、「俵津」、「玉津」からも見えなかった。

唯一見えたのは、「狩江」からで、この件は決着し、水越島は「狩江村」の所有となったと昔々聞いた話です。

この話と同じような話が、四国と九州に挟まれた豊後水道のど真中にポツンと浮かぶ「水ノ子島」でもあり、この島の周辺の海域は大型ブリ、タイ、イサキなどが回遊する好漁場のため漁師の縄張りも熾烈で、江戸時代この島を東西に挟む宇和島藩と佐伯の毛利藩とが領土権をめぐって対立、これに決着つけるため「双方、水ノ子島に一番近い港から、一番鶏の鳴き声を合図に舟を漕ぎ出し、先に着いた方の領土とすべし」というお上の裁断がでた。

宇和島藩は日振島に毛利藩は大島に舟を用意したが、ここで一計を案じたのが毛利藩、かがり火を焚いて夜明け前に鶏を鳴かせ、いち早く舟を漕ぎ出し、宇和島藩を出し抜いて、水ノ子島は毛利藩のものとなった。

法花津湾の水越島よりも一回り大きな高さ 26.1m、周囲 300mの一木一草もない水ノ子島、ここにも日本の灯台 50 選にも選ばれてい

る有名な灯台「水ノ子島灯台」があり、豊後水道を守っています。

【伊予水越島灯台周辺図】

○伊予水越島灯台要項

所在地	愛媛県西予市（水越島）
塗色・構造	白色、塔形
灯　質	単閃白光　毎５秒に１閃光
光達距離	7.5 海里（約 14 ㎞）
高　さ	地上から構造物の頂部まで　8.0m
	平均水面上から灯火まで　16.0m
	地上から灯火まで　7.91m
点灯年月日	昭和４６年１２月１８日

永年使用による施設の老朽化に伴い、令和元年度施設整備工事を実施、令和２年３月１日工事完了、きれいな建造物になっています。

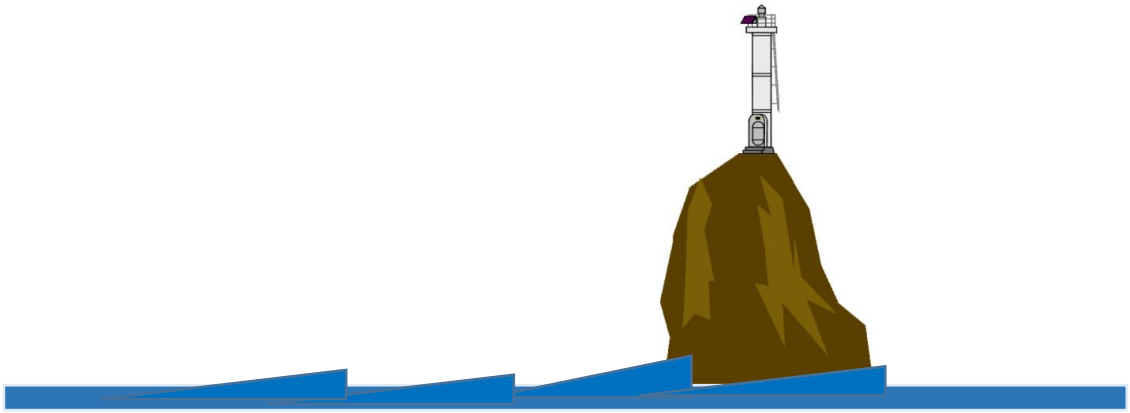
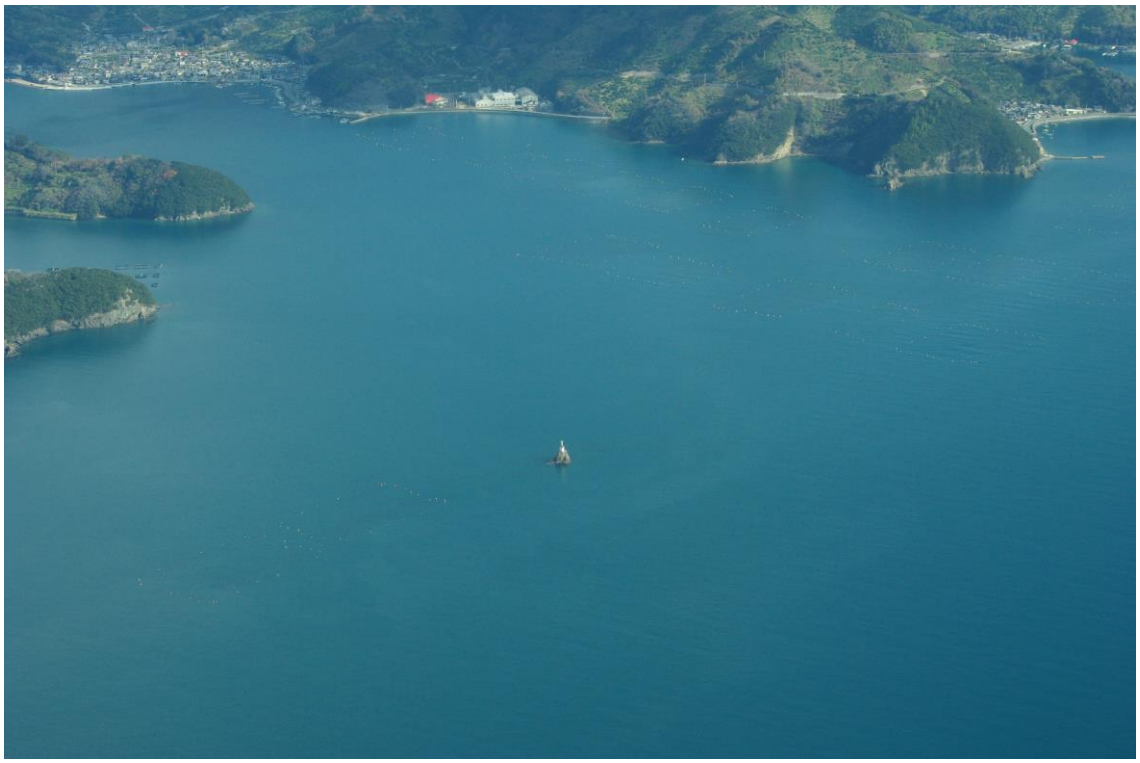
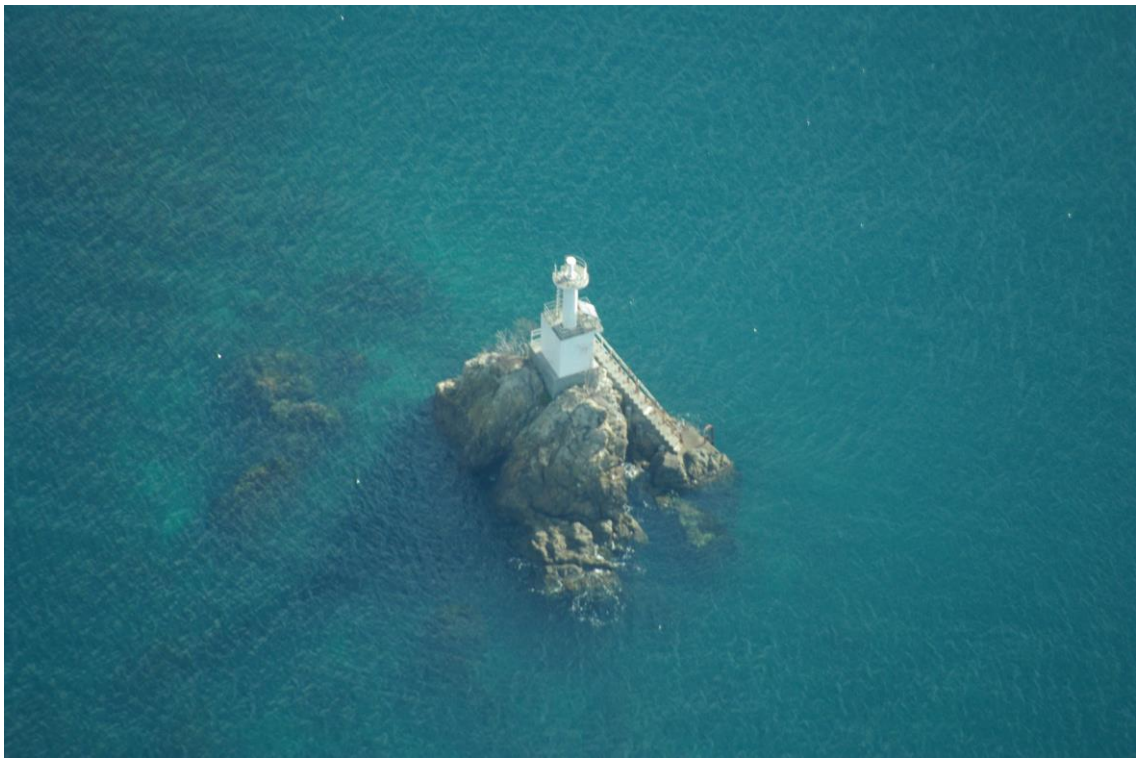
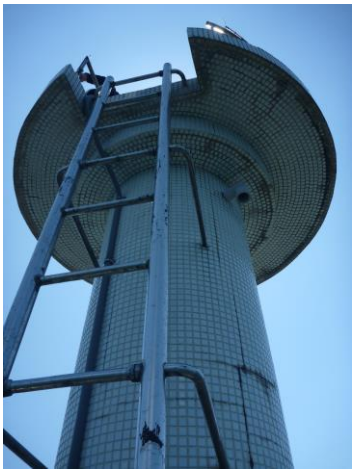
水越島灯台（西予市明浜町）で、灯台の紹介は一応終了します。

当南予北分会の範囲、長浜から佐田岬半島（伊方町）、八幡浜市、西予市まで２１回にわたってきましたが、何カ所か省略したところもあります。

これらの反省も含め、灯台に対する私の感想や思い等も込めて、あと２回程度つづけるつもりです。

水越島灯台が８月の予定ですので、１０月には最後にしたいと思っています。

★「大八車」№２３５（令和３年８月 10 日発行）掲載分



○伊予水越島灯台及び周辺